

6 響灘諸島地域の振興計画

1 響灘諸島地域の概況

響灘諸島地域は、蓋井島、六連島の2島で構成され、各島とも下関市に属しています。

(1) 人口、面積

本地域の人口は、平成12年の国勢調査によると、蓋井島123人、六連島159人、平成17年では蓋井島87人、六連島112人、平成22年では蓋井島83人、六連島104人となっており減少傾向にあります。

また、平成22年の国勢調査によると、年齢分布は年少人口（0歳～14歳）が蓋井島4.8%、六連島4.8%、生産年齢人口（15歳～64歳）が蓋井島60.3%、六連島58.7%、老年人口（65歳以上）が蓋井島34.9%、六連島36.5%となっており少子高齢化が進んでいます。

本地域の人口、高齢化率は下表のとおりです。

【各島の概況】

島名	行政区域	面積	人口	増減率(対H17)	高齢化率
蓋井島	下関市	2.35 km ²	83人	△4.6%	34.9%
六連島	下関市	0.69 km ²	104人	△7.1%	36.5%
計	1市	3.04 km ²	187人	△6.0%	35.8%

※面積～全国都道府県市区町村別面積調、人口・高齢化率～国勢調査

(2) 地形条件、気候

位置は、蓋井島は下関市の西約6km、六連島は同じく西約4kmの響灘に位置しています。

地勢は、蓋井島は海岸線がけわしい岩石海岸で、東南部の湾頭にある砂浜から山の斜面となっています。六連島は矩形に近い塊状の溶岩台地をなしています。

気候は、日本海側気候に近いが、比較的温暖で降水量は少量です。

(3) 周辺海域

比較的静穏ですが、冬季は強い季節風が吹きます。

2 振興の基本的方向

本土との地域間格差の拡大を抑制し、島内人口の減少傾向に歯止めをかけ地域間交流の促進、定住の促進を実現するために、個性豊かで活力に満ちあふれた魅力ある島づくりを目指すことを基本的な方針とします。

- 本地域の蓋井島及び六連島は内海本土近接型に属するため、母都市下関市との生活圏の一層の一体化を進めます。
- 豊かな自然を生かした快適な生活環境を創造し、農水産業をはじめとした地域の特性を十分に発揮できる産業の振興を図ることによって、定住を促進し交流人口の増加に努めます。
- 各産業を担う人材の育成や他地域との交流の促進、定住の促進などソフト面の施策を拡充す

ることによって、経済・文化の自立的発展を促進します。

3 取組の内容

(1) 交通・通信の確保

ア 離島航路

《現状》

航路は、国の補助航路として指定されています。

六連島航路は平成24年3月に老朽化した旧竹崎待合所の隣接地に多目的トイレや点字ブロック等を備えたバリアフリー対応の竹崎待合所を新設しました。

両島とも離島住民の移動の確保のために必要不可欠な交通手段である離島航路事業用船舶を安定的に確保し、現行のサービス基準と船舶の有人離島への運航率を維持しています。

【離島航路概要】

航路区間	1日往復 便数	航路 距離	片道料金	片道所要 時間	船舶総トン数・ 定員
蓋井島～吉見	2便 (4/1～10/31：3便)	14.0km	620円	35分	49トン・80人
六連島～竹崎	4便 (7/25～8/16：5便)	8.0km	360円	20分	48トン・100人

《課題》

- ・島の人口減少傾向が続いているとともに、観光資源の活用や道路網の整備が十分ではないため、増便による利用者拡大の効果が現れていません。
- ・島外との交流拡大や来島者の利便性向上のため、本土側の渡船乗場周辺に駐車場用地を確保する必要がありますが、新たな用地確保は非常に困難な状況です。
- ・人の往来及び生活に必要な物資等の輸送に関する費用が他の地域に比較して多額です。
- ・両航路に就航している船舶は老朽化しており、一方でバリアフリー化の要望もあることから代替船の建造等の検討が必要となっています。
- ・六連島航路の竹崎側以外の待合室及び両航路の全船着場が老朽化しています。

《振興の方向》

利用者数の減少傾向を防止し、隔絶性の解消を図り本土との一層の一体化を進めます。

(施策の内容)

- ・航路の整備については、住民ニーズを踏まえた船舶の代替船の建造と安定経営に努めながら、便数の増加や運航時間の見直し等を行い、本土側も含めた待合室や船着場の改築及び駐車場用地の確保等による利便性の向上を図ります。
- ・人の往来及び生活に必要な物資等の輸送に関する費用が他の地域に比較して多額であるため、国や県の補助事業を有効活用し、運賃及び輸送費の低廉化を図ります。

イ 島内交通

《現状・課題》

六連島においては、特に幹線道路から各農地への枝線の整備が遅れているとともに、農機具等の大型化に伴い道路拡幅等の改良が求められています。また、地形的な制約や用地の確保の課題が残っています。また、道路側溝が未整備であるため、雨水等が大量に農地へ流れ込み悪影響を及ぼしています。

《振興の方向》

島内道路を整備し島内交通を円滑化することにより、一層の生活環境の改善、産業の振興を図ります。

(施策の内容)

- ・道路整備については、用地の確保に努めながら、引き続き市道や農道の整備改良を図り島内交通を確保します。

ウ 情報・通信

《現状・課題》

- ・インターネット環境は、各島とも無線系ブロードバンド回線です。
- ・超高速ブロードバンドサービス（100Mbps程度）を利用できる環境にはありません。

《振興の方向》

本土と同様に高度情報通信基盤が整備されていくよう、スマートフォンなど端末の高機能化の進展にあわせ、より一層、高速化されるモバイル通信（超高速ブロードバンドサービス）のエリア拡大を目指します。

(2) 産業の振興及び起業・就業の促進

本地域の平成22年の国勢調査による産業別就業者数は、次表のとおりです。

【産業分類別就業者数】

島名	農業		漁業		第2次産業		第3次産業		分類 不能	計
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
蓋井島	0人	0%	35人	60.3%	0人	0%	19人	32.8%	4人	58人
六連島	46人	61.3%	7人	9.3%	2人	2.7%	16人	21.3%	4人	75人
計	46人	34.6%	42人	31.6%	2人	1.5%	35人	26.3%	8人	133人

この地域は第1次産業への依存が高く、蓋井島は水産業に特化し、六連島は農業が主であり水産業は農業との兼業となっています。

- (1) 農業は、六連島では花きが主力で、菊、カーネーションやガーベラ等が栽培されており、大型鉄骨ハウスの整備や共同花き等運搬船の導入が行われています。
- (2) 水産業は、蓋井島、六連島とも周辺の恵まれた資源により、磯見、定置網、一本釣り等が行われ、あわび、さざえ、いか、ぶり等の魚介類が水揚げされています。
- (3) 六連島では、本土通勤者が多い状況です。

《振興の方向》

人口の減少、高齢化の進行により労働力の確保が困難な状況にあるため、地域の特性を十分に発揮できる産業の振興、起業・就業の促進を図り、また、各産業を担う人材の育成や島外との交流の拡大を図ることにより、交流人口の増加、定住の促進に努めます。

ア 農業

《現状》

六連島においては、高品質花きの周年安定生産を図るため大型鉄骨ハウスを整備するとともに、出荷コストの低減を図るため、共同花き等運搬船の導入が行われましたが、当該運搬船が老朽化しています。

《課題》

農地が不整形であり、農道及び進入路が確保されていません。また、農業用水を湧き水に依存しているため、慢性的な水不足が生じる等、効率的な営農への障害となっています。さらに、点在している耕作放棄地の有効利用を図る必要があります。

《振興の方向》

花きを基幹作物とし、農道整備、農業用排水路等の基盤整備により経営の安定化や効率化を図り、高品質高付加価値型の産地育成に努めます。

(施策の内容)

- ・ 共同利用できる集出荷施設、鉄骨ハウス等を整備し、花きの生産拡大に努めます。
- ・ 効率的で安定的な農業が行える育苗・栽培等の技術体系を構築します。
- ・ 貯水施設等の整備を行い、農業用水の安定供給に努めます。
- ・ 花き等運搬船の老朽化に伴う改修を行い、花き等の共同出荷に努めます。

イ 水産業

《現状》

六連島においては、若年漁業者がヒジキの養殖に積極的に取り組んでいます。

蓋井島においては、近年、Uターン者が増え、そのほとんどが、漁業に従事しています。また、地元組織が島で獲れた水産物を詰め合わせた磯美人パックを宅配販売しています。

《課題》

- ・ 適切な漁港施設の維持管理が必要です。
- ・ 安定的な水産資源の確保が必要です。
- ・ 密漁を未然に防ぐため取締りの強化が必要です。
- ・ 藻場の保護、造成が必要です。
- ・ 安定的な漁獲の確保が必要です。

《振興の方向》

本地域の基幹産業として、水産資源の増殖と基盤整備に努め、生産性の向上と生産の拡大により、漁業経営の安定と所得の向上を図ります。

(施策の内容)

- ・ 係留施設等、漁港施設の整備、充実を図ります。
- ・ 水産資源の維持、培養、幼稚魚の保護育成、藻場の保護、造成など漁場の拡充や栽培漁業の推進を図ります。

- ・付加価値を高めるための活魚出荷や水産加工等への取組を強化します。
- ・密漁を防ぐため、監視船による取締り強化を図ります。

ウ 起業・就業の促進

《現状・課題》

六連島ではUターン者が増え、そのほとんどが漁業に従事しています。

《振興の方向》

- ・後継者、新規参入者の人材育成、確保に努め、産地としての確立を図ります。
- ・遊休地の利活用を図り、新たな産業の育成に努めます。
- ・インターネット等を活用した産地情報の発信、特産品の通信販売等により販路拡大を促進します。

(3) 生活環境の整備

ア 水道

《現状・課題》

蓋井島、六連島ともに海底送水により整備されています。

《振興の方向》

海底送水管の適切な維持管理を行い、安定した給水の確保に努めます。

イ ごみ処理

《現状・課題》

蓋井島・六連島ともに、燃やせるごみ及び資源ごみについては定期船で搬送し本土処理しています。

燃やせないごみ等については、随時搬送し本土処理しています。

《振興の方向》

環境にやさしい地域づくりを進め、ごみの減量化・リサイクルなど環境に配慮した取組を推進します。

ウ 汚水処理

《現状》

蓋井島は集落排水施設が整備され、六連島は浄化槽による水洗化が図られています。

《課題》

六連島の多くは、みなし浄化槽であり、合併処理浄化槽の設置が進んでいません。生活排水を処理せずに排出しているため、周辺海域の汚染等が懸念されます。

《振興の方向》

六連島については、合併処理浄化槽の設置を推進し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ります。

蓋井島については、集落排水施設の安定的な維持管理に努めます。

エ 消防

《現状》

- ・消防防災組織としては消防団が設置され、消防機材が整備されています。
- ・小型動力ポンプの計画的な更新整備により、消防機材の整備充実を図っています。
- ・消防団員と島民との定期的な合同消防演習の実施により、火災等災害発生時における初動体制の確立に努めています。

《課題》

- ・さらなる近代的な機材（小型動力ポンプ積載車）の配備や施設整備のためには道路整備、用地確保が必要です。
- ・人口減少や高齢化に伴い消防団員の確保が難しくなっています。

《振興の方向》

- ・今後とも全市的な整備計画に基づき、消防施設及び機材の更新・整備充実に努めます。また、島内道路の整備を図ります。
- ・消防団員等の訓練強化等により初動制圧体制の確立に努め、さらに自主防災組織の育成を図ります。

(4) 医療の確保

《現状》

- ・蓋井島、六連島ともに診療所はありませんが、蓋井島においては住民の保健・福祉の増進のために下関市蓋井島保健福祉館が設置されており、保健所が実施する健康相談、市立市民病院が実施する巡回診察、また平成22年度からマッサージ師による施術の際に利用されています。
- ・へき地保健医療計画に基づき、へき地医療拠点病院である市立市民病院において、蓋井島巡回診察を平成14年度から開始し、内科医、外科医、整形外科医、歯科医を派遣し、へき地医療を支えています。
- ・救急体制としては、緊急時のヘリポートとして利用できる場所が確保されており、緊急時の本土搬送は県ドクターヘリや県消防防災ヘリコプターでの搬送を優先し、日没時や荒天時には、船舶で対応しています。
- ・妊産婦や乳幼児に対し、家庭訪問や育児相談等を行い、住民の出産育児支援に努めています。

《課題》

- ・本土近接型の島であることや診療日が限定されていることから、本土医療機関の利用率が高く、巡回診察を利用する島民が少ない状況にあります。

《振興の方向》

無医地区である本地域において、健康管理対策の充実、緊急時の医療体制の確保を図り、本土との生活圏の一層の一体化を進め、生活基盤の充実を図ります。

（施策の内容）

- ・へき地医療拠点病院（市立市民病院）、医師会等との連携を図ることにより、へき地医療水準の向上に努め、各種健診や健康相談の定期的な実施と訪問指導等の保健活動を充実強化し、高齢者をはじめ住民の健康づくりを進めます。

- ・医療施設の充実や医師の確保、県消防防災ヘリコプター及び県ドクターヘリの活用による緊急体制の確保など、医療体制の確立を図ります。
- ・蓋井島、六連島ともに産婦人科の医療機関がなく、妊婦の健康診査の受診及び出産のための通院に対する支援に努めます。

(5) 高齢者等の福祉の増進

《現状・課題》

- ・島民の高齢化の進展により、介護ニーズが高まるおそれがありますが、同時に住民の減少及び高齢化によって、地域における介護力の低下が懸念されます。
- ・現在も島内に介護ニーズはあるものの需要が小さく、島内での介護サービスの提供体制の整備・充実は現実的に困難な状況です。
- ・住民が本土の介護サービス（通所系）を利用する際の渡船運賃の半額を助成し、利用促進を図っていますが、一方で定期航路の運航頻度が低く、本土の介護サービスが利用しにくい状況にあります。

《振興の方向》

高齢化の進行に伴う福祉対策等ニーズの多様化に応えることにより、快適な生活環境を整えます。

(施策の内容)

- ・定期航路の改善を図り、本土からの保健福祉サービスの提供体制等の拡充を図ります。
- ・高齢者の健康維持増進を図るため、健康相談、健康教育、家庭訪問等を一層推進します。
- ・住み慣れた地域で自分らしく充実した生活を営めるよう、高齢者が地域社会の一員としてその知識と経験を生かし、積極的に社会活動に参加する意識づくりと環境づくりを推進します。
- ・住民が本土の介護サービス（通所系）を利用する際の渡船運賃の半額助成を継続し、引き続き利用促進を図ります。
- ・本土からの介護サービス（訪問系）が提供されやすいように環境づくりを進めるとともに、介護サービス利用に係る住民負担の軽減により、本土との格差是正を図ります。

(6) 教育及び文化の振興

ア 教育

《現状》

- ・蓋井島には小学校が設置されており、中学生は本土の寄宿舍から通学しています。六連島では小中学校生とも本土へ通学しています。
- ・高校生については、島内には高校が設置されておらず、島を離れて高校進学をせざるを得なくなるため、通学費や自宅を離れての居住費の負担が重くなっています。
- ・社会教育については、漁村センターがその役割を担っています。
- ・地域の伝統行事は継承され、地域の連帯感の醸成にも寄与しています。

《課題》

- ・教育の機会均等の観点からも、すべての高校生が安心して勉学に打ち込める社会をつくることが重要であり、教育費負担が重くなる通学費、居住費等の経費を支援する必要があります。

《振興の方向》

人口のさらなる減少をくい止めるため、教育環境の向上を図ります。

(施策の内容)

- ・通学費、居住費等の教育費負担が大きい離島高校生に対して、経済面における修学支援に努めることにより、離島住民に対する経済的負担の緩和を図ります。

イ 文化

《現状》

- ・島内にある各種文化財については、説明板を整備し、保護意識の高揚や周知PRに努めています。また、伝統的な神事については、その継承や後継者育成等を目的として映像記録の作成を手がけています。

※指定文化財：六連島灯台、雲母玄武岩、山ノ神神事、山ノ神の森、ヒゼンマユミ

- ・平成16年度の台風により絶滅が危惧された国の天然記念物である「カラスバト」については、平成17年1月よりその個体数の把握及び緊急給餌、樹木の成育状況の推移調査を行ない、現在は徐々に回復の兆しが見えています。

《課題》

- ・周辺整備も含んだ文化財の保護は、所有者等との調整が必要であり、また新たな開発を行うことは文化財や自然破壊につながる恐れがあります。
- ・蓋井島の「山ノ神」神事については、社会構造の変化により担い手、後継者不足が深刻な課題であり、将来的に保存、伝承に不安が生じています。

《振興の方向》

恵まれた文化的・歴史的な地域資源の保存活用、周知PRを図ります。

(施策の内容)

- ・文化的遺産を島外にPRするとともに、蓋井島においては国指定文化財「蓋井島「山ノ神」の森」や県指定文化財「ヒゼンマユミ群落」、六連島においては国指定文化財「六連島の雲母玄武岩」や市指定文化財「六連島灯台」などの文化財の保存及び活用を図ります。
- ・未指定文化財も数多くあるため調査に努め、文化財に対する住民等の保護意識を醸成するため、適切な文化財の保護、公開手法についての検討を行います。
- ・無形民俗文化財については、担い手や内容等に変化が生じることもあるため、その変容について調査して記録保存するとともに、後継者育成を行う保存団体に対する支援を拡充する等、積極的な対策を講じます。

(7) 観光の開発

《現状》

- ・蓋井島、六連島ともに遊魚目的の日帰り客が主体です。
- ・六連島では地元組織のフラワーレインボーの会が島内案内及びフラワーアレンジメント体験のガイドを実施しています。
- ・蓋井島ではエミューを飼育しており、牧場見学、エミューオイルの販売を実施しています。
- ・六連島には宿泊施設がなく、蓋井島も小規模の民宿のみであり、経営者の高齢化が進んでいます。

- ・パンフレットの作成、インターネットによる島の情報発信を行い、周知PRに努めていますが、観光客を呼び込むまでには至っていません。

《課題》

貴重な地域資源が存在するにも関わらず、十分な情報発信や観光交流資源としての活用がなされていません。

《振興の方向》

- ・旧来の史跡旧跡巡り型観光から、滞在交流型観光等へのニーズの変化に応えられるよう、島への交通アクセス及び島内滞在の受入体制の改善に努めます。
- ・蓋井島においては民宿を利用した滞在型、六連島においては日帰り体験学習型といった島の特性に応じた多様な観光施策を図るとともに、当該施策を充実させるため地域の組織づくりやリーダーの育成に努めます。

(8) 他地域との交流の促進

《現状・課題》

移住を検討している人が、島の生活を仮体験できるような、短期宿泊がしやすい体制を整える必要があります。

《振興の方向》

島を活性化し、うるおいのある豊かな生活を維持していくために、島外との交流を促進し交流人口の増加に努めます。

(主な施策)

- ・若者の定住やU J I ターンを促進し、里親制度や空き家活用をはじめとした総合的な都市住民の受入体制づくりに努めます。
- ・農業、漁業体験ツアー等を展開し都市住民との交流拡大を図ります。
- ・産業、観光等の分野とも連携して、インターネット等を活用した島外への情報発信、情報交換を促進します。

(9) 自然環境の保全・再生

《現状・課題》

海岸清掃については、地元自治会等が主体となり取り組んでいます。

《振興の方向》

適切な役割分担による海岸清掃の実施と支援を行います。

(10) 再生可能エネルギーの利用推進

《現状・課題》

電力は本土から送電線によって供給されています。

《振興の方向》

地域特性に応じた再生可能エネルギーの導入について検討を行います。

(11) 国土保全施設等の整備その他の防災対策

《現状・課題》

- ・本地区は、玄武岩、安山岩等が分布しており、比較的地質の状態は良好です。
- ・離島という地理的特性から、災害等発生時に孤立化する恐れがあります。また防災上必要な教育、定期的な訓練が必要です。

《振興の方向》

- ・集落や公共施設の安全確保を図るため、砂防事業等を推進し、離島住民の生活の安全を確保することにより、快適な生活環境の整備に努めます。
- ・災害時の孤立化対策として、衛星携帯電話の配備をし、緊急情報の伝達手段として防災行政無線（屋外拡声子局）の整備を図ります。
- ・島内に存する指定避難所の耐震化を推進するとともに定期的な防災訓練、避難訓練を通じて住民の防災意識の高揚を図ります。

(12) 離島の振興に寄与する人材の確保育成

《現状・課題》

島内外を問わず、離島の振興に寄与する人材の確保・育成に努める必要があります。

《振興の方向》

離島外の人材の誘致並びに大学等によるグループでの支援を活用するなど、多様な人材確保に努めます。